

槇谷（名田庄）の幻の滝



滝は落ちて水は谷川に広がっていく。写真手前の沢は広く、そこで参加者は記念写真を撮った。

敦賀から国道二七号線をとり、小浜に向けて走ると小浜市内に入る手前に南川にかかる湯岡橋がある。そこで左折して一六二号線へ入り、南川をさかのぼること二十キロで槇谷集落に着く。

槇谷に立派な滝があるが、このままにしておくのは惜しい、自然を残したままの形でなんとかみんなが見に行けるように出来ないかと、合併前の名田庄村観光協会で話しを持ち上がった。数年前のことである。それがおい町として合併した後、町の事業として取り上げられ、今年滝への道が完成したのである。

七月の半ば、地元の糸田正夫さんの案内で総勢三十余名が槇谷の五つの滝を巡ることになった。本日の一番のお目当ては「幻の滝」とよばれている「足谷の滝」である。糸田さんはこれらの滝に至る道をほとんど一人で造られたのである。

五つの滝は、順に「一反の滝」、「三段の滝」、「足谷の滝」、「舟谷の滝」そして「庵の谷滝」である。「一反の滝」と「三段の滝」は集落の前を流れる槇谷川の上流にある。

乗用車の他、数台の軽トラの荷台に分乗して、お宮さんの前を出発、一キロほどで最初の「一反の滝」への下り口に着いた。

かつては一反（約十一メートル）の布を垂らしても余るほどの高さだったので「一反の滝」とよばれていたが、滝の下流に造られた砂防堰堤がため込む土砂に谷川が埋まり、今は昔の半分ほどになっている。茶房堰堤が出来る前の昔の写真を見せてもらったが、それは立派な滝であった。

登りなおし、次の滝目指して再び車で林道を走る。「三段の滝↓」と、杉の木を削った標識に手書きの文字があった。車を降りて滝までの急な勾配のまだ新しい道を下るところどころロープが固定してある。大きな滝壺を持つ三段の滝の一番の上部は、下から望むことはできないが、うねりながら落ちてくる水量は豊富で見事な眺めである。「三段の滝」のカンバンから少し林道を登ると、この滝が上から落ちる様を眺めることが出来るスポットがある。下からとはまた別の眺めで素晴らしい。

再び登りなおして林道に戻る。榎谷集落から延びている、深い山を一周するように造られた林道はその後の保守が十分でなく、車を慎重に進める。標高が六百メートル以上来たところに、本日のお目当ての「足谷の滝」の案内板があった。

そこから標高差で二百メートルほど、尾根につけられた道を下る。標高差二百メートル

ルも往復するのは「遊歩道」というには厳しい道なので、下から詰めることは出来なかったのですかと、米田さんに尋ねると、昔は辿る道があったけれど、今は谷の荒れようがひどくとても通れたものでないということだった。

突然視界が開けそこに幻の滝、「足谷の滝」があった。

写真にあるように滝は見事に真っ直ぐに落ちていた。濃い緑の中、強い意志を持ったような美しさであった。来てよかったと思っただ。

登り直して林道に莫蔭を敷いて昼食をとる。そのあと「舟谷の滝」と「庵の谷滝」をみた。「舟谷の滝」は水量が少なかったが、「庵の谷滝」はゴウゴウと音を立てて落ちていた。

今回は車を利用したが、歩くと一日ゆっくり楽しめる程の行程である。大勢の人に訪れてほしいと思う。

(二〇〇七年八月十一日)